

越冬条件の厳しい 道東での放牧利用に 適した

メドウフェスク
早生品種

『ハルサカエ』

ペレニアルライグラスやオーチャードグラスの越冬生に不安のある北海道東部・
土壌凍結地帯での放牧草地基幹草種！
導入した酪農家からは、「越冬生が良く長持ちする！」「簡易更新での定着が良い」
「夏～秋の放牧草が確保でき使いやすい！」など、多くの好評をいただいております。



- 越冬性に優れ、北海道一円に適応し、道東の土壌凍結地帯でも安定した放牧利用が可能です。
- 早春の草勢に優れ、シロクローバの混播適性も良好です。
- 草丈 20～30cm程度で利用することで、持続的な利用が可能です。

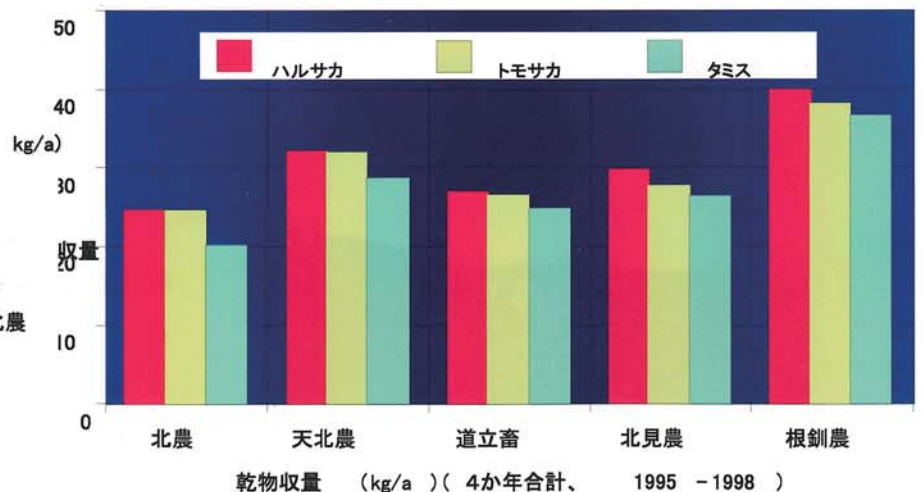


図2. ハルスカエの多収

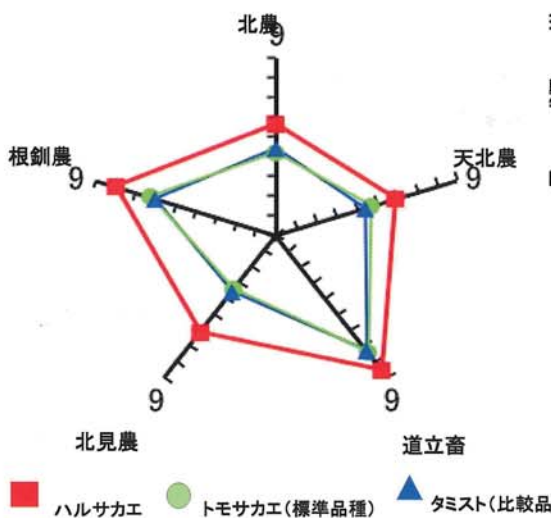


図1. ハルスカエの越冬性
(1:極不良? 9:極良)

○栽培適地

北海道東部・土壌凍結地帯

栽培利用法

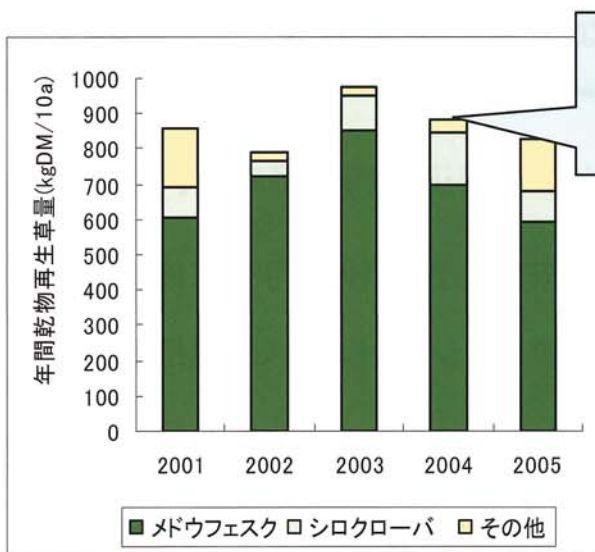
播種期：春播種（5～6月）

播種量：2～3kg/10a、シロクローバ 0.3kg/10a程度の混播

利用方法：

放牧利用、20～30cmの短草利用で集約的な放牧が可能です。草丈が伸びすぎて出穂茎が見られる場合は、刈高高めで掃除刈を行うことが望ましいです。

植生が悪化した牧草地にハルサカエを用いて簡易更新することも十分可能です。



メドウフェスク「ハルサカエ」放牧地は長持ちします！



図3. メドウフェスク放牧地の年間乾物再生草量（播種6年目まで）



簡易更新で既存草地に導入できます！

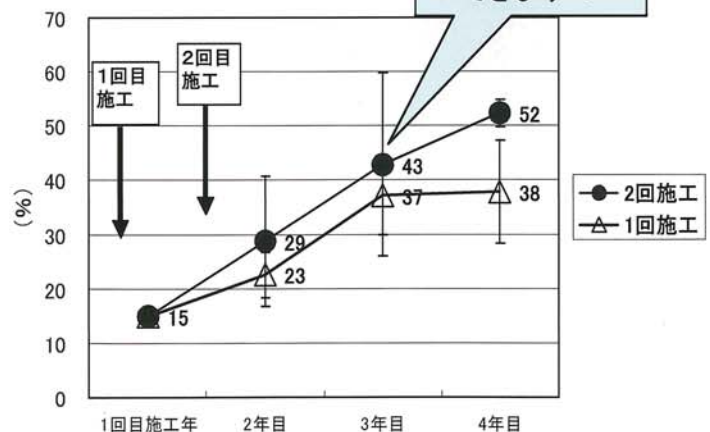


図4. 簡易更新（作溝法）でのメドウフェスク導入による被度の拡大

【育成機関】 お問い合わせ先：

（独）北海道農業研究センター 酪農研究領域

飼料作物グループ TEL 011-857-9273（直通）